

## 令和7年度 東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

平均正答率が全国の54.3％に対し48％とし、対全国比は今年度88％（対大阪市は92％）であり、令和6年度（現高校1年）の対全国比は93％であった。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が－4.0ポイントから－7.6ポイント。「書くこと」は－5.6ポイントから－5.9ポイント。「読むこと」は－5.3ポイントから－6.1ポイントとなっている。

令和6年度から比較して、全て下回っている。

また、平均無解答率は10.3％（全国6.7％）であり、令和6年度の4.5％（全国は3.9％）と比較して、取り組みに対する意欲も低下している。しかし、令和5年度は平均正答率が、対全国比87％。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が－9.4ポイント。「書くこと」は－6.6ポイント。「読むこと」は－11.4ポイントであった。

また、平均無解答率は9.8％（今年度は10.3％）で全国は4.6％（今年度は6.7％）となり、全体的には上回っている。

＜数学＞

平均正答率が全国の48.3％に対し39％とし、対全国比が81％（対大阪市は85％）であり、令和6年度の対全国比の99％からは大きく下回っている。内容としては全国と比較して、「数と式」領域において、－2.ポイントから－10.8ポイント。また、「図形」領域が＋0.1ポイントから、－7.0ポイント。「関数」領域も－0.9ポイントから－10.1ポイント、「データの活用」領域も－0.2ポイントから－10.4ポイントと全て下回っている。また、平均無解答率が16.7％（全国は10.6％）であり、令和6年度の13.3％（全国は11.3％）であることから、取り組みに対する意欲も低下している。しかし、一昨年度の令和5年度でみると、対全国比80％（「数と式」領域において、－7.9ポイント。「図形」領域が－8.2ポイント。「関数」領域も－10.3ポイント。「データの活用」領域も－15.3ポイントとなり、若干上回っている。また、平均無解答率は令和5年度が18.3％、全国は9.6％であり、取り組みに対する意欲も若干上回っている。

＜理科＞

理科においてはIRTスコアが、全国の503に対し、本校は447であり、対全国比は89％（対大阪市比は91％）であった。

○チャレンジテスト（3年生）結果

＜国語＞

府平均64.2に対して、本校平均59.2となり、対府比92％となっている。昨年度（2年時）は89％であった。また、令和6年度（現高校1年）では97％である。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、60～64点と70～74点の割合が多く、75～100点の割合が低い。各領域の平均点を対府比でみると、「話すこと、聞くこと」が94％、「書くこと」が93％、「読むこと」が91％となり、全て下回っている。

＜社会＞

府平均51.2に対して、本校平均47.5となり、対府比93％となっている。昨年度（2年時）は87％であった。また、令和6年度（現高校1年）では103％である。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、10～49点の割合が高い、70～100点の割合が全て下回っている。各領域の平均点を対府比でみると、「地理的分野」が95％、「歴史的分野」が90％となり、両方が下回っている。

＜数学＞

府平均53.9に対して、本校平均50.2となり、対府比93％となっている。昨年度（現高校1年）は98％であった。同学年（現3年）では89％であり、向上している。得点分布では、昨年度と応じように、府と比較して全体的には同じ傾向であるが、「のこぎり」のようにいびつな結果であり、75点以上の割合で府を下回っている傾向にある。各領域の平均点を対府比でみると、「数と式」が94％、「図形」が95％、「関数」が92％、「データの活用」が88％となり、全て下回っている。

＜理科（B問題）＞

府平均46.0に対して、本校平均39.7となり、対府比86％となっている。昨年度（現高校1年）は98％であった。しかし、同学年（現3年）では80％であり、向上している。得点分布では府と比較して、55点以上の割合が全て下回り、5～39点の割合が高い。各領域の平均点を対府比でみると、「エネルギー」が89％、「粒子」が93％、「生命」が82％、「地球」が90％となり、全て下回っている。

＜英語＞

府平均53.2に対して、本校平均41.7と78％となっている。昨年度（現高校1年）は91％であった。同学年（現3年）では81％であった。得点分布では府と比較し、5～39点の割合が高い。55点以上の割合が極端に低い。各領域の平均点を対府比でみると、「聞くこと」が85％、「読むこと」が79％、「書くこと」が72％となり、全て下回っている。

【今後に向けて】

5教科において、大阪府の平均に対し、下回っている。これまでに基礎的・基本的な学力定着を目標としてきたが、大阪府平均に対する得点割合では7割に満たないが34.7％であった。特に理科（B問題）が43.7％、英語が54.8％と非常に厳しい結果となった。しかし、同一学年の経年でみると英語以外は改善されており、生徒の学習状況に応じたプリントを作成し、添削と助言を行ってきたことから、一定の改善は見られる。基礎的・基礎的な学力の定着には自学自習も必要不可欠となるので、デジタルドリルやアプリを活用し、家庭学習にもつなげ、積み重ねることで改善を目標としている。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく